

産業能率大学

兒玉ゼミ

宮野チーム

「カラフルな街 一人一人の個性を発信する」

参加メンバー (敬称略)	
チームリーダー：宮野 祐貴 (3年)	
石井えりの (3年)	谷 亜由美 (3年)
大程 竜太 (3年)	原崎 克也 (3年)
近藤 舞香 (3年)	外菌 絵理 (3年)
佐川 隼 (3年)	村田真理乃 (3年)
篠田 理夏 (3年)	吉田 有希 (3年)
岩本麻祐子 (3年)	長谷川由真 (3年)
大村 泰喜 (3年)	福嶋 涼平 (3年)
齋藤 理咲 (3年)	松山 和真 (3年)
佐藤 圭介 (3年)	山口 未来 (3年)
田口 晴加 (3年)	
指導教員：兒玉 哲 (経営学部)	

世田谷区、せたがや自治政策研究所 御中

2014年10月15日作成
産業能率大学 経営学部
兒玉ゼミ3年 ゼミ生一同

「世田谷まちづくり大学生プレゼン大会」提案書要旨

タイトル：カラフルな街 一人一人の個性を発信する

現状分析：世田谷区の農産物の現状問題→年々農地減少、せたがやそだちの認知度の低さ

提案内容：‘都市農業推進事業の中の学校給食への区内農産物提供事業への提案’

- ・給食提供時の食器の変更（世田谷区の形をしたワンプレートの食器に変更）
- ・区内農産物を使った料理を提供する際に、その野菜がとれた地域の位置のくぼみにて提供（どの地域でどのような野菜が採れるのか理解を深めるため）
- ・給食を食べ終わったら、空欄がある書き込み式図鑑に何の野菜を食べたのか、食べた感想を書き込む
- ・最終的に書き込んだ図鑑は生産者に返し、感謝を伝える（今後の励みになる）

提案理由：都市農業推進事業の取り組みの一つである学校給食への区内農産物提供事業の改善で、歴史ある、都内でも貴重な世田谷農業の現状問題を食い止めたい。
農家の方が一人で頑張って終わり、ではなく、その頑張りが給食を食べる子供たちを笑顔にする。
そして、子から保護者へと世田谷の農作物の魅力が伝わり、興味・関心・笑顔の無限ループが出来上がることが私たちの希望である。



目指す街の姿・タイトル



カラフルな街
一人一人の個性を発信する

一人一人が個性を発信して
いくことで、地域が元気になる
活性化する





世田谷区の産業振興

世田谷区の産業振興というテーマを選び、主にどの産業について提案するか考えました。その結果、私たち大学生にも身近で、その産業が元気になることで周りの産業、行政、そして市民がカラフルな笑顔になるにはと考え、‘農業’と‘教育’に焦点をあてました。

子供たちが楽しく学ぶことができ、農家の方が今後も農業を続けていこうと思えるような提案をさせていただきます。




目次

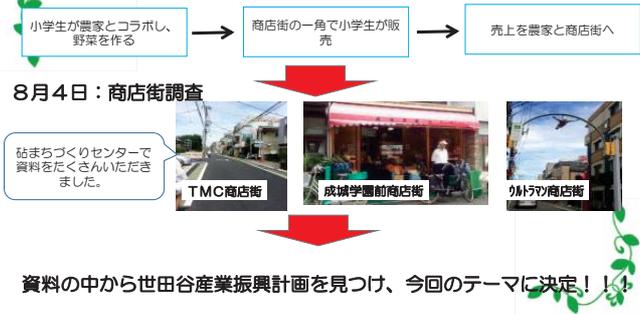
1. 今までの経緯
 2. 農業に着目したきっかけ
 3. 世田谷農業事業の現状
 4. 都市農業推進事業の問題点
 5. <既存事業>学校給食への区内農産物の供給
 6. 私たちの提案
 7. 世田谷ワンプレート給食とは？
 8. 世田谷ワンプレート提案
- 



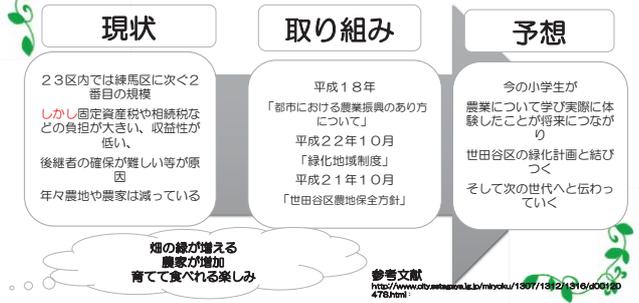
目次

9. 世田谷ワンプレート給食のメリット
 10. 世田谷区立京西小学校の取り組み
 11. 書き込み式図鑑詳細作成～図鑑を作ることによって～
 12. 短期的目標
 13. 結論
 14. 参考文献
- 

1. 今までの経緯



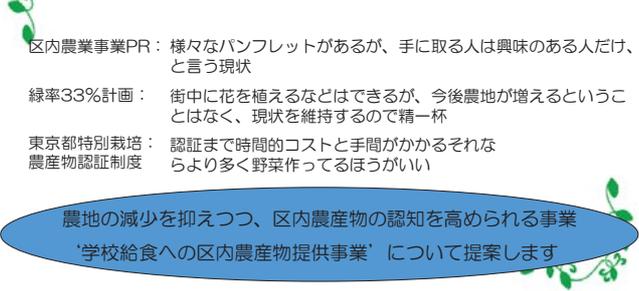
2. 農業に着目したきっかけ



3. 世田谷農業事業の現状



4. 都市農業推進事業の問題点



5. 学校給食への区内産農産物供給

<事業内容>

- ・農業の活性化、食の地産地消を目的に、区内産農産物を学校給食の食材へ
- ・農作物の育て方や食べ方を指導することで、食農教育の充実を図る

<事業計画（4か年の取り組み）>

- ・学校給食への区内産農産物供給の充実
- ・食農教育のための講師派遣

世田谷区産業振興計画（平成26年度～29年度）より

6. 私たちの提案

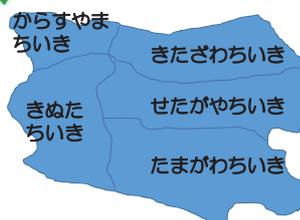
- ・世田谷区内の農地は年々減っており、貴重な区内農産物を学校給食に提供しているのだから、子どもたちにもっと楽しく‘野菜’そして‘農家’を知ってもらえる方法はないだろうか。
- ・ただ食べて終わりではなく、農産物を提供してくださった農家の方に感謝の気持ちを伝え、今後農家を続けることの励みになるようなものを形に残せないだろうか

世田谷ワンプレート給食の提案

7. 世田谷ワンプレート給食とは？

- ・給食で使われている、食器をワンプレート化する。
- ・プレートの形を世田谷区にすることで、地域愛とともに地域によって作られている野菜を知ることができる。
- ・隔週または月に1回このプレートを使い給食を提供してもらい、その日限定で1地域の野菜を使った料理を振舞う。
- ・これを地域一周させることで、世田谷区にある地域の名産を知ることができる。
- ・その日に出てきた野菜の種類を穴の開いた、書き込み式の図鑑に書き込んでいき、その図鑑が完成する時に区内農産物の認知度があがることが予想される。

8. 世田谷ワンプレート案



- ・世田谷区内の5つの地域にみだてた仕切りがついているお皿で給食を食べる
- ・たとえば、烏山地域産の野菜を使った料理は左上のくぼみに盛る
- ・自分の場所がどこにあり、どのような地域と関わって生活しているのか、市民意識を感じらる

9. メリット

- 子どもたちとその保護者に「世田谷区の農業」について知ってもらうことができる
- 世田谷区で農業を営まれているということを「知っている」という20代が現在少ない。この案を実施することにより、未来の20代の認知度を上げることができる
- 楽しみにしている給食で、地域の食について触れることで、子どもたちの記憶に色濃く残る
- 食材として使用した農作物を作っている方たちに、感謝の気持ちを伝えることができ、農家の方たちの今後の活力になる。

10. 世田谷区立京西小学校

花壇を畑に…

各学年で
野菜を栽培

出来た野菜を
給食で食べる

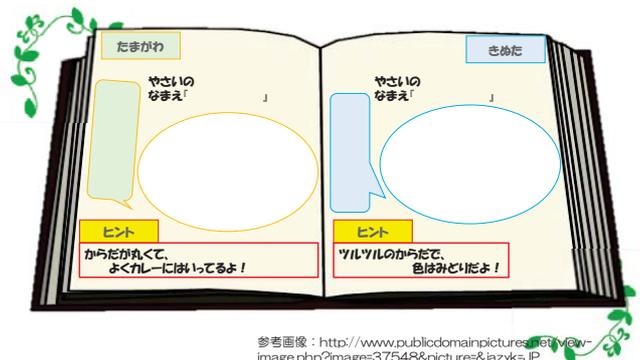
親子共に
関心が高まる

- * 毎日の給食を学校HPにアップ
- * 世田谷産の野菜や卵を給食に使用
- * 京西小学校は農協と契約し、食育に力をいれている

11. 書き込み式図鑑詳細

各クラスで作った図鑑、1年分を生産者（品目）ごとにわけて1つの冊子にし、生産者さんに渡す

完成形



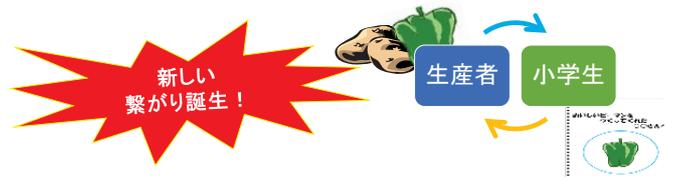
参考画像：http://www.publicdomainpictures.net/view_image.php?image=37548&picture=&jazyk=JP



感謝をこめて、生産者さんにお返し

図鑑を作ることによって

生産者	小学生&保護者	世田谷区
<ul style="list-style-type: none"> 野菜を知ってもらえる 消費者（小学生）からレスポンスがもらえる 農業を続ける糧になる 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく地元野菜を知れる 書く（書く）ことによって表現力が身に付く 子供が食べている野菜がわかる（安心） 子供とのコミュニケーションの1つになる 	<ul style="list-style-type: none"> 区民のせたがや育ちへの認知度が上がる 野菜の消費量が増える

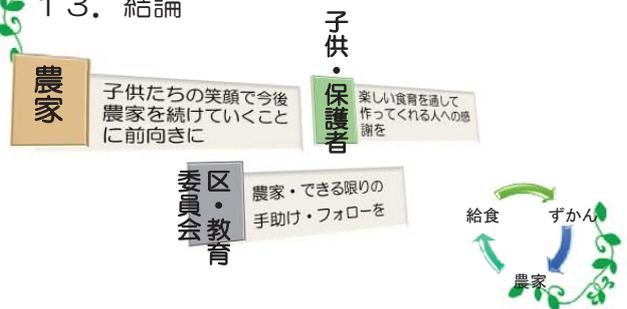


12. 短期的目標

- 世田谷区にある1校（*世田谷区立京西小学校）をモデル校とし、この取り組みを実行する
- 継続して行い、若年層の認知度が上がるかを調査
- また、農家の方々のモチベーションの向上に繋がっているかも調査

→良い結果が得られた場合、学校数を増やしていく

13. 結論





14. 参考文献

お話

世田谷区産業政策部 都市農業課農業振興係
農業振興係長 黒沼 順子様

資料

- ・世田谷区農業振興計画〔改訂版〕 平成22年6月 世田谷区
- ・世田谷区の概況 平成26年4月25日 せたがや自治政策研究所
- ・世田谷区産業振興計画（平成26年度～29年度） 平成26年3月
世田谷区 産業政策部
- ・せたがや農業通信 平成26年度 ～世田谷の農業の概要～世田谷区
産業政策部 都市農業課
- ・平成26年度版 世田谷農産物直売所マップ 平成26年6月 世
田谷区 産業政策部 都市農業課 農業振興係

